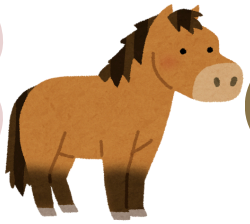


２０２６年はうま年！！

設楽町馬の歴史・馬に係る秘話特集

名倉駒(なぐらごま)

むかし、設楽町・名倉には「名倉駒（なくらごま)」 とよばれる馬がいました。今では見かけなくなりましたが、その歴史は平安時代までさかのぼります。

849年、三河の役人が天皇のお祝いに「白馬40頭を献上した！」と記録が残っており、名倉駒のはじまりとされています。

さて、最近の研究で日本には縄文・弥生時代には、馬はいなかったことが分かってきました。

馬が日本にやってきたのは、古墳時代（約1500年前）朝鮮半島から来た人たちが、馬と新しい技術を日本に伝えたのです。

名倉駒は、速さではなく、坂道に強い！丈夫でがまん強い！荷物運びが得意！という山のくらしにぴったりの馬でした。そのため「箱根越えの荷運びは名倉馬が一番」とも言われていました。

名倉駒は、奥三河の山あいで人とともに生き、くらしを支えてきた大切な存在！

名倉の歴史は、馬の歴史でもあるのです。

名馬が残した「マオケの石」

むかしむかし、越後にとんでもなく足の速い名馬がおりました。

あまりに速いので、長者さんが「外に出るなよ」と毎日見張っていたのですが、ある日、馬は「三河というとこに行ってみたいなぁ」と、ビューン！と空を飛んで出かけてしまったのです。

長者さんは大慌てで追いかけたものの、馬は竜頭山から鞍掛山へ「ぴょんっ！」とひと跳び！追いつけるはずがありません。

山のてっぺんにある大きな穴は、その名馬が「喉がかわいた！」と飲んだ水の跡だとか・！？そばには、跳び移ったときの蹄のあとが３つも残る石もあります。

村人は、雨が降らないときは、その水をもらって雨ごいしたそうです。

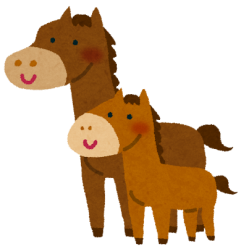
名倉の馬と観音様

むかし大蔵寺に、とても暴れる馬がおりました。

お寺の人は困り果て、鎖で大きな杉の木につないだところ、７日７晩たって馬は力尽きました。和尚さまはその馬の為に観音さまを建てて供養しましたが、いつのまにか姿が見えなくなってしまいました。

それから長い年月が流れ、明治20年ごろ、落雷で倒れた杉の根元からその観音さまが再び見つかり、祀り直されたそうです。

それからは、この観音さまにお参りすると「子どもの乳の出」や「馬の病」に効き目があると評判になり、観音さまはたいそう信仰されたと伝えられます。



設楽町の観光情報は
こちら➡

編集：（一社）設楽町観光協会